

第3回環境WG会議（平成17年12月1日）のまとめ

（05-12-05 村岡記）

（註：文中、村岡主査の私見を付加している点もあります。）

1. 環境WG課題の具体的な検討事項

- (1) まちづくりWGの「武庫川カルテ」に記載する水質情報について（村岡）
 - ・ 本川、支川合わせて33地点の観測記録が「平成15年度公共用水域の水質等測定結果報告書」に記載されている。
 - ・ カルテには、流量、BOD、DO、SS、（大腸菌群数）程度の記載が適当であろう。
- (2) 潮止め堰について（岡田）
 - ・ これまでの検討内容に加えて、利水、治水、自然環境の観点から検討事項があれば作業を進める。
 - ・ 周辺揚水井戸の最近の動向が不明である。揚水地点、揚水量、水位、水質（特に塩分）などが問題であろう。地下水管理はどのように行われているのか。
- (3) 下流域の地下水揚水と地盤沈下等の問題
 - ・ 揚水規制（用水2法）により地盤沈下は沈静化したとはいえ、現在での揚水現況をまとめておく必要がある。
 - ・ 温泉水の汲み上げが最近あるようだが、その地点、ストレーナの位置、揚水量（許可水量？）、泉質、利用状況（加熱、加水、循環利用、衛生管理、利用者数等）、排水の状況などの情報が必要である。
- (4) 上水道、農業用水の取水源について
 - ・ 水源水の水質はどの程度把握されているのか。農業用水では地下水の利用も多い。
 - ・ 取水源および水量については宝塚市をはじめ関係各市の水収支として整理を進める。（村岡）
 - ・ （農薬の問題）
- (5) ゴルフ場の問題、その他の水質問題
 - ・ 使用農薬や肥料がわかればいいが、河川への排出負荷はどんなものか。
 - ・ 界面活性剤はどうなっているか。
 - ・ 流域の水質管理は適切か。（村岡）
- (6) 五感による川の評価（佐々木）
 - ・ 水質項目だけでなく、五感を指標とした川の環境を評価できないか。
 - ・ 生物指標による水質環境の評価法はある。

2. 豪雨時の下水武庫川放流量の件（会議資料-2）（報告：草薙）について

（主な討議）

- ・ 出水時（ここでは平16.10.20台風23号）の下水道施設から武庫川への放流量記録は貴重なものである。武庫川下流域下水道施設の計画降雨は6年確率降雨（46.84mm/hr）である。
- ・ 資料によると、南武、常松、瓦木の3ポンプ場合計の1時間放流量の最大は20日16時台で、123,084m³であった。これは平均34.19m³/sにあたる。

- ・ 下水処理場およびポンプ場への流入雨水量、および河川への放流量の全容は明確でないことが多い。合流式、分流式の別を考慮し、各処理場の下水道区域における諸量（処理人口、処理面積等の計画量や実績量、および汚水、雨水の別など）を整理し、水収支と流動経路を明らかにする必要がある。
- ・ 水量だけでなく、水質も大事である。平常時の水質は調べられているはず。

3 . 治水の河道対策への対応

- ・ 河道の重要な生物や生態系の保護の観点から河道の治水対策に対する提言が必要である。
- ・ 流域対策に関しても、流域での重要な生物や生態系の分布資料の提示が必要である。

次回（第3回環境WG会議）：平成17年12月16日（金）14:00～17:00

（注：後半はまちづくりWG会議）